



明末清初の書画

王鐸くん

Late-Ming and Early-Qing Calligraphy and Painting

八大山人くん



東京国立博物館・台東区立書道博物館 連携企画

2026年1月13日

東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画第23弾では、明末清初の激動の時代を取り上げます。重要文化財6件、重要美術品1件を含む、全210件！東京国立博物館で122件、台東区立書道博物館で88件を展示します。

※会期・開館日・開館時間・展示作品・展示期間・関連イベント等については、変更する場合があります。最新情報は各館ウェブサイト等でご確認ください。

※会期中、展示替えがあります。一部の作品の展示期間は下記の限りではありません。

東京国立博物館：2026年1月1日(木・祝)13時～3月22日(日)

前期：1月1日(木・祝)13時～2月8日(日)

後期：2月10日(火)～3月22日(日)

台東区立書道博物館：2026年1月4日(日)～3月22日(日)

前期：1月4日(日)～2月8日(日)

後期：2月10日(火)～3月22日(日)

東京国立博物館 東洋館8室 TOKYO NATIONAL MUSEUM

明末清初の書画 — 乱世にみる夢 —

Dreams in a Time of Turmoil: Late-Ming and Early-Qing Calligraphy and Painting

2026年1月1日(木・祝)13時～3月22日(日) 前期：1月1日(木・祝)13時～2月8日(日) / 後期：2月10日(火)～3月22日(日)

開館時間 9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで) ※金・土曜日、1月11日(日)、2月22日(日)は20:00まで開館

休館日 月曜日、1月13日(火)、2月24日(火) ※ただし、1月12日(月・祝)、2月23日(月・祝)は開館

観覧料 一般 1,000円 大学生 500円
・高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料です。
・入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。
・障害者とその介護者各1名は無料です。入館の際に障害者手帳等をご提示ください。

住所 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 電話 050(5541)8600(ハローダイヤル)

ウェブサイト <https://www.tnm.jp/>

交通 JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分
※駐車場・駐輪場はありません



トーハクくん ユリノキちゃん
東京国立博物館公式キャラクター

台東区立書道博物館 CALLIGRAPHY MUSEUM

はち だい さん じん

明末清初の書画 — 八大山人 生誕400年記念 —

The 400th Anniversary of Bada Shanren's Birth: Late-Ming and Early-Qing Calligraphy and Painting

2026年1月4日(日)～3月22日(日) 前期：1月4日(日)～2月8日(日) / 後期：2月10日(火)～3月22日(日)

開館時間 9:30～16:30(入館は閉館の30分前まで)

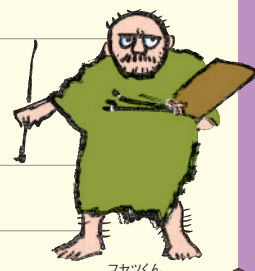
休館日 月曜日、1月13日(火)、2月24日(火) ※ただし、1月12日(月・祝)、2月23日(月・祝)は開館

観覧料 一般・大学生 500円(300円) 高・中・小学生 250円(150円) ()内は20名以上の団体料金
・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳、特定疾患医療受給者証の提示者とその介護者は無料です。
・毎週土曜日は台東区在住・在学の小、中学生とその引率者が無料です。

住所 〒110-0003 東京都台東区根岸2-10-4 電話 03(3872)2645

ウェブサイト <https://www.taitogeibun.net/shodou/>

交通 JR鶯谷駅北口より徒歩5分 台東区循環バス「北めぐりん」⑬書道博物館より徒歩3分 ※駐車場はありません



フセツくん



展覧会概要

明 時代の末から清時代の初めにかけては、単なる王朝の交替にとどまらず、歴史的な大転換期でした。異民族である満洲族が漢民族を支配する清王朝を樹立したことで、社会は激しく揺れ動き、政治的な動乱と文化的な変革が交錯する、複雑で劇的な時代が訪れたのです。

明末には、伝統的な儒教観からの脱却を目指し、個性の解放を追求する急進的な陽明学派が広まり、文芸や書画において精神表現の重視が強調されるようになっていました。そうした中、明の滅亡という未曾有の国難に直面した知識人たちは、「抗清」か「順清」かという厳しい選択を迫られました。前者を選べば死が、後者を選べば懐柔と統制が待つという過酷な状況下で、いずれの道を選ぶにせよ、名節を重んじようとした彼らの内面的な生き様は、人品気節として作品に色濃く反映されました。このような精神風土が、多くの個性的な人物を輩出する土壌となったのです。

東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画第23弾は、明末清初の激動の時代を取り上げます。動乱期にあって、明王朝に殉じた烈士、清王朝に抵抗し明への忠節を尽くした遺民、清に降伏して明と清の両王朝に仕えた忸臣など、彼らはそれぞれに波乱の人生を歩みました。文人たちが苦悩の末に行き着いた境地、そしてそれを受け継いだ後世の人びとの表現をご堪能ください。

※以下の章立ては図録にもとづいており、各館における実際の展示構成とは異なります。

プロローグ 二つの王朝交代

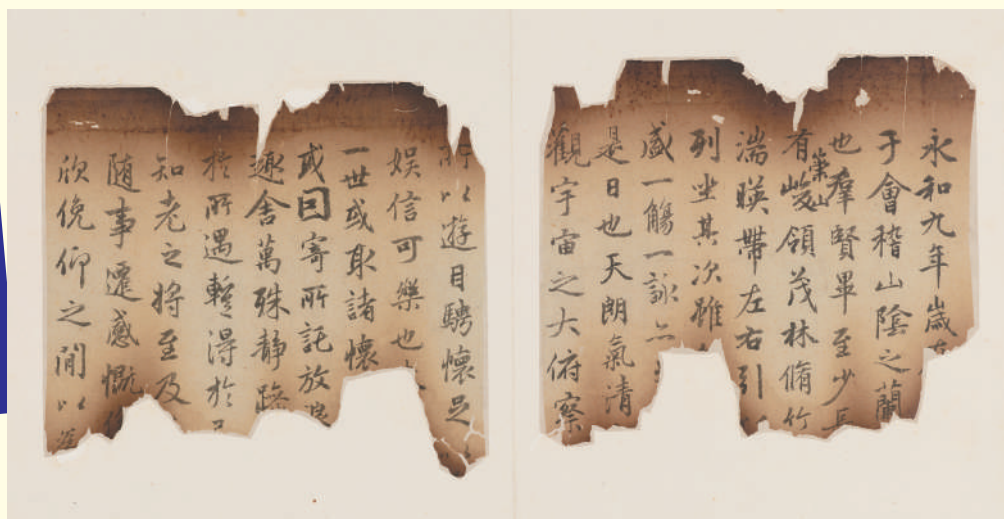
中 国史において、宋末元初と明末清初はいずれも異民族が漢民族の王朝を滅ぼした重大な転換期でした。宋末元初は、モンゴル族の元が漢民族の宋を、そして明末清初は、満洲族の清が漢民族の明を滅ぼしました。

しかし政治的断絶にもかかわらず、漢民族の文化は継承され、再編を重ねていきます。明末清初には、都市文化の成熟とともに雅が広く流通し、文人たちはその世俗化の中で個の解放を志向しました。王朝の崩壊は遺民と忸臣という対照的な立場を生み、それぞれ沈黙・抵抗・再構築の形で伝統と向き合います。こうした緊張の中で、書画は技巧と精神性が交錯する場となり、やがて清初の秩序再編へとつながっていきます。

秋の筆

羲之を呼び出す

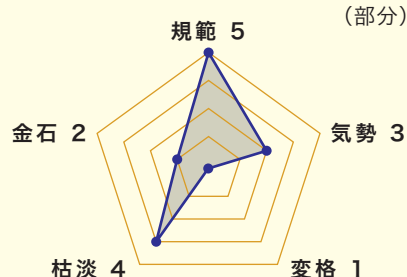
焼け跡に



どっ こ ぼん てい ぶ らん てい じょならびにらん ていじゅうさん ぼつ
独孤本定武蘭亭序並蘭亭十三跋

原跡：王羲之筆、跋：趙孟頫 他筆 1帖

原跡：東晋時代・永和9年(353)、趙孟頫跋：元時代・至大3年(1310)
高島菊次郎氏寄贈 東京国立博物館蔵(東博展示・前期)



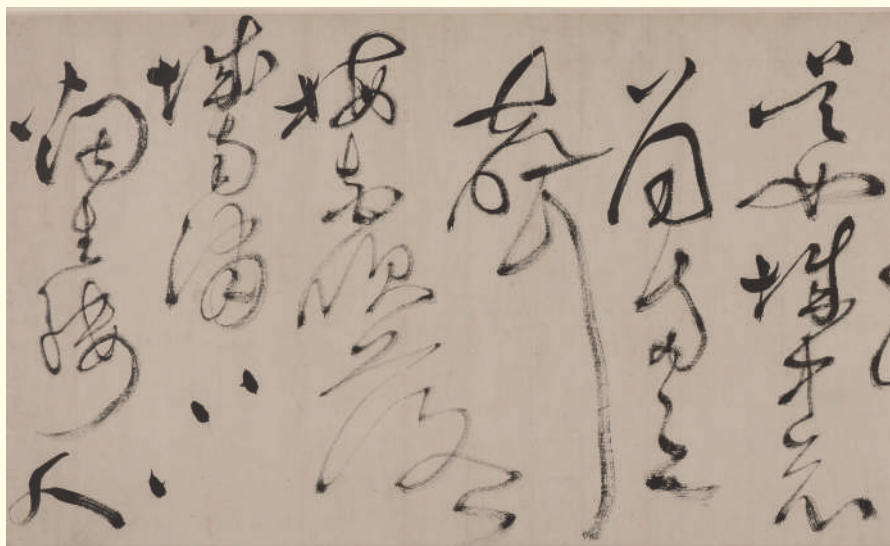
第一章 爛熟と揺らぎの時代 【明末】

明 末は、王朝の衰退と社会不安が深まる中で文化が爛熟の極みに達した時代です。書画では、雅の形式が都市文化や市場経済の発展とともに広く流通し、文人の趣味は世俗化しました。文人たちは、従来の規範から距離を取り、感情や美意識を前面に押し出す表現を模索します。董其昌の「南北二宗論」に象徴されるように、技巧の洗練と精神性の表出が重視されましたが、社会の動揺は芸術に影を落とし、遊戯性や退廃的感性を帯びた作品も生まれます。

夏嵐

墨の飛沫や

狂い咲く



そう しょ し かん
草書詩巻

じょ い
徐渭筆 1巻

明時代・16世紀
高島菊次郎氏寄贈
東京国立博物館蔵(東博展示・前期)

規範 1

(部分)

金石 1

枯淡 2

氣勢 5

変格 5



異界かな

雲を呑み込む

奇岩湧き

けい ざん ぜつ じん ず じく
溪山絶塵図軸

こ ひん
呉彬筆 奇想派 1幅

明時代・万暦43年(1615)
個人蔵(東博展示・2/25~3/22)

規範 2

金石 2

枯淡 3

氣勢 3

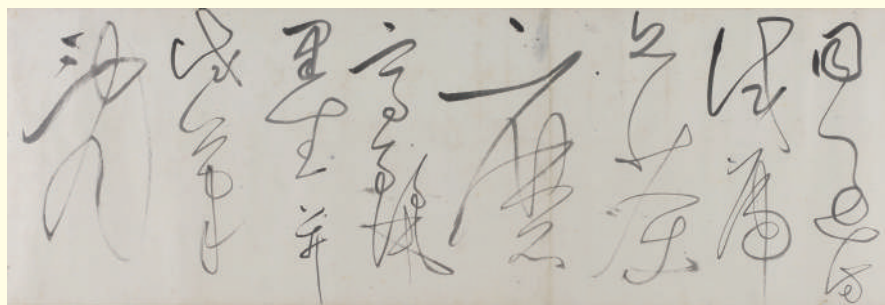
変格 5



狂草る雲

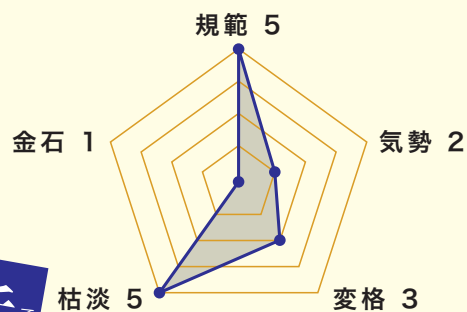
理を脱ぎ捨てて

風起こり



ぎょうそう しょうらんさんとうしょうかん
行草書羅漢贊等書卷
とうきしやう
董其昌筆 1巻

明時代・万暦31年(1603)
高島菊次郎氏寄贈
東京国立博物館蔵
(東博展示・後期)



古今の知

ごとく集める

手鑑のかみ

しよががっぺきさつ
書画合璧冊
とうきしやう
董其昌筆 1帖

明時代・崇禎2年(1629)
高島菊次郎氏寄贈
東京国立博物館蔵(東博展示・前期)

第二章 激動の中の表現 【明清の王朝交代】

明から清への交代は、政治的・社会的に大きな激動をもたらしました。この混乱の中で、書画は美的表現をこえ、精神的抵抗や葛藤の場となります。旧王朝への忠誠を貫いた遺民は、隠棲や沈黙、象徴的表現に心情を託し、新王朝に仕えた忸臣は、伝統再編の担い手として新秩序の中で表現を模索しました。こうした対照的立場は、個の解放のあり方に深い影響を与え、遺民は孤高を、忸臣は制度と美の再構築を筆墨に託しました。

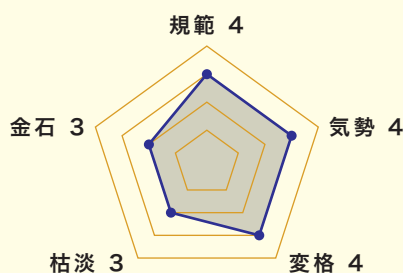
孤松かな

来世を憂う

夢めぐり

さんすいずじく
山水図軸
こうどうしゅう
黄道周筆 烈士 1幅

明時代・崇禎8年(1635)
京都国立博物館蔵(書博展示・後期)

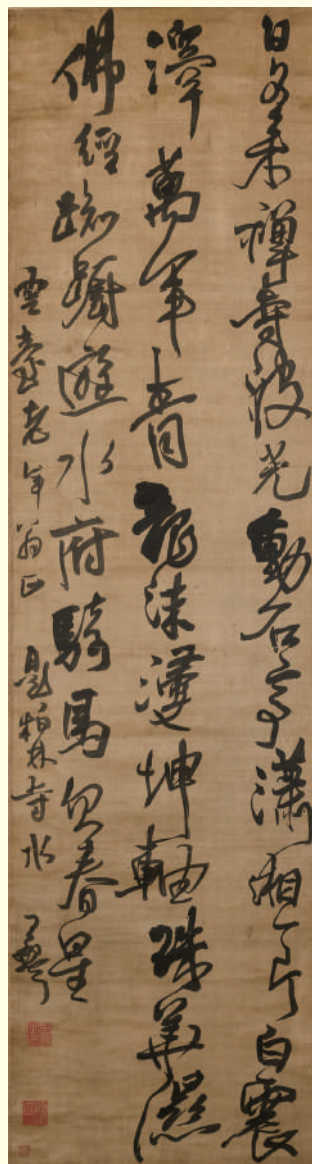
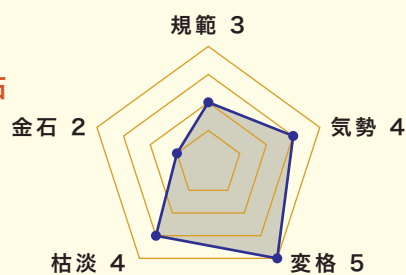


掌に
握るる岩や
冬の骨



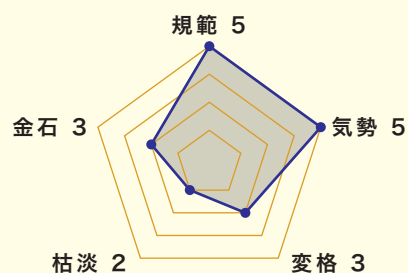
しよ が さつ
書画冊
げい げん る
倪元璐筆 烈士 1帖

明時代・崇禎12年(1638)
高島菊次郎氏寄贈
東京国立博物館蔵
(東博展示・前期)



ぎようしょ こ こん りっ し じく
行書五言律詩軸
おう たく
王鐸筆 武臣 1幅

明〜清時代・17世紀
青山杉雨氏寄贈
東京国立博物館蔵
(東博展示・後期)

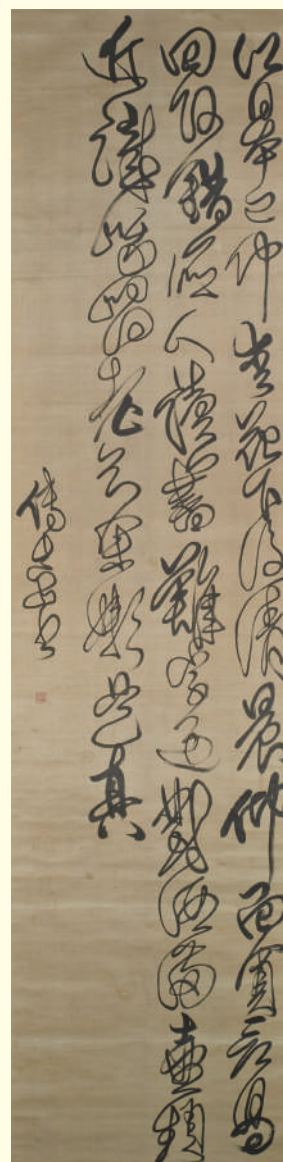
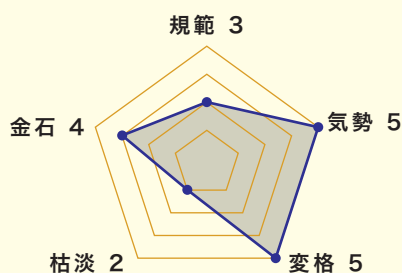


龍の如
統を食む墨
天を駆く

野のままに
醜を愛でたる
魂ひとつ

そう しょ こ こん りっ し じく
草書五言律詩軸
ふ ざん
傅山筆 遺民 1幅

清時代・17世紀
東京国立博物館蔵
(東博展示・後期)



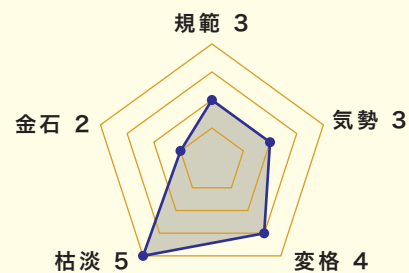
水の音
闇より深き
重ね塗り



重要美術品 さんすいずじく 山水図軸

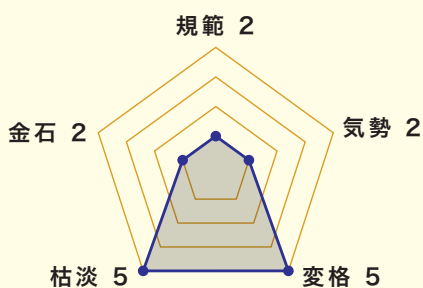
ぎょうけん 龔賢筆 遺民 1幅

清時代・康熙12年(1673)
東京国立博物館蔵
(東博展示・後期)



第三章 八大山人—静寂の中の深淵— 【生誕400年記念】

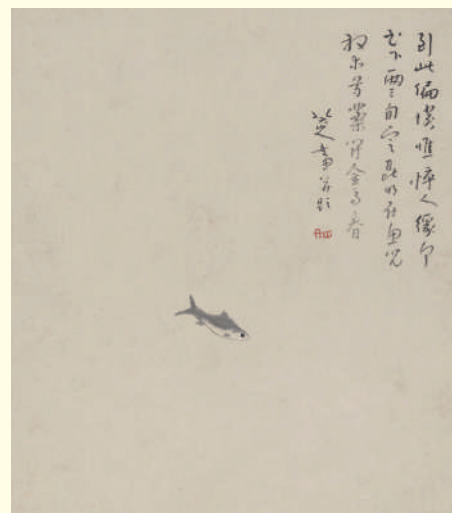
明 王朝の宗室に生まれた八大山人は、清成立後に出家し、沈黙と逸脱を通じて遺民としての精神を貫きました。董其昌の理論を踏まえつつも、八大山人は空白と象徴に満ちた独自の様式を築きます。その表現は石濤と並び、個の解放の極限を示すと同時に、伝統再編への鋭い批評性を備えています。鳥や魚を描いた寓意的作品には、沈黙の中に深い精神性と痛切な感情が宿されます。八大山人の作品を通して、歴史の激動に生まれた美、そして孤高の思想の深淵へと迫ります。



魚の秋
乾坤を閉ず
黒き目に

重要文化財 あんぼんじょう 安晩帖 はちだいさんじん 八大山人筆 遺民 1帖

清時代・康熙33年(1694)、
康熙41年(1702)
泉屋博古館蔵
(書博展示・2/23~3/8)

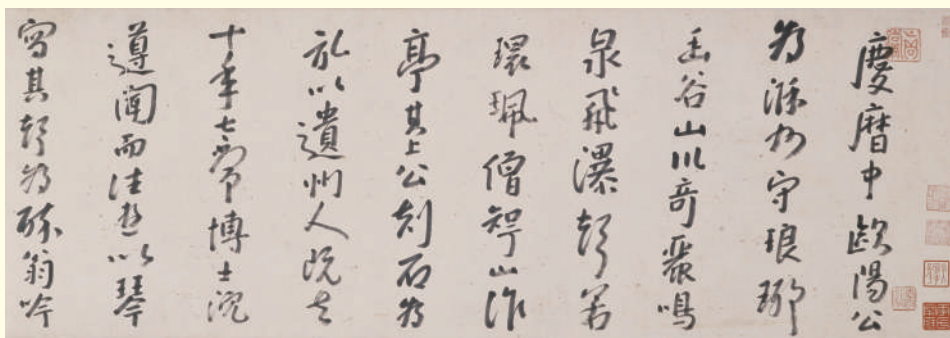




天睨む
鳥の白眼に
万古凍つ

いつがい が さつ
乙亥画冊
はち だい さん じん
八大山人筆 1帖

清時代・康熙34年(1695)
調布市武者小路実篤記念館蔵
(書博展示・通期)



(部分)

すい おう ざん かん
醉翁吟卷
はち だい さん じん
八大山人筆 1巻

清時代・康熙44年(1705)
泉屋博古館蔵
(書博展示・後期)

冬
の
月
禿筆澄めり
酔うてなお

水清く
山燃ゆる故郷に
今いずこ

さん すい ず じく
山水図軸
はち だい さん じん
八大山人筆 1幅

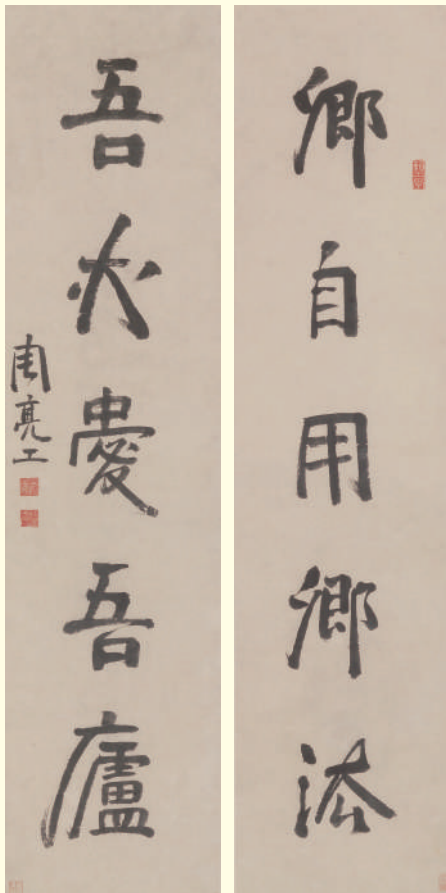
清時代・17~18世紀
大阪市立美術館蔵
(書博展示・後期)



第四章 秩序の再編と個性の新展開 【清初～清中期】

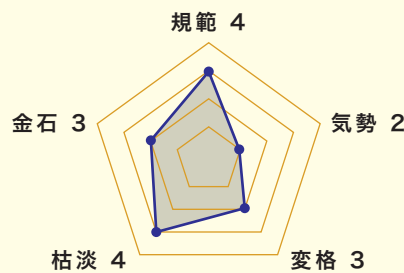
清 初は、明末の激動を経て秩序再構築が進み、康熙帝は文治主義を掲げて儒学と芸術を奨励しました。董其昌の「南北二宗論」は四王呉惲らにより体系化され、雅の価値を再定義する試みが展開されます。

一方、文人たちは立場を超えて知的ネットワークを築き、周亮工のように収集や出版を通じて文化継承に寄与しました。やがて清中期には、揚州の繁栄を背景に、八大山人の精神を受け継ぎつつ市場性を取り込んだ揚州八怪が登場し、権威に縛られない自由で風狂な表現を展開しました。



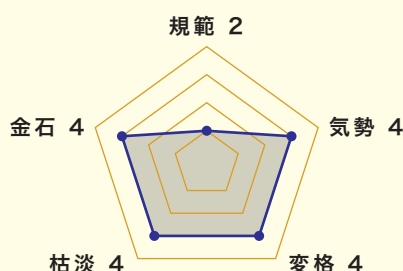
ぎょうしよ こ こん れん
行書五言聯
しゅうりよう こう
周亮工筆 武臣 2幅

清時代・17世紀
個人蔵
(書博展示・前期)



しよ が じょう
書画帖
こう ほう かん
高鳳翰筆 揚州八怪 1帖

清時代・乾隆2年(1737)
泉屋博古館蔵
(書博展示・後期)



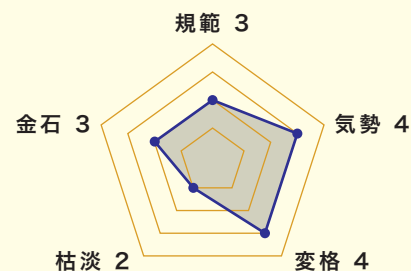
嵐吹く
墨飛ぶ筆に
泥を蹴り



ふう か ず じく
風荷図軸

り ぜん
李鱓筆 揚州八怪 1幅

清時代・18世紀
大阪市立美術館蔵
(書博展示・後期)



エピローグ 八大山人へのオマージュ

八 大山人の孤高の表現は、清初の正統派が古典模倣に陥り形骸化する中で、対極的に時代をこえて輝きを放ち続けました。八大山人の芸術は、明末の個の解放を体現し、後世の芸術家に尽きせぬインスピレーションを与えます。清末には趙之謙や吳昌碩が革新的造形を再解釈し、金石の気風を取り込みながら近代中国芸術の新たな地平を切り開き、齊白石へとつながる道を開きました。

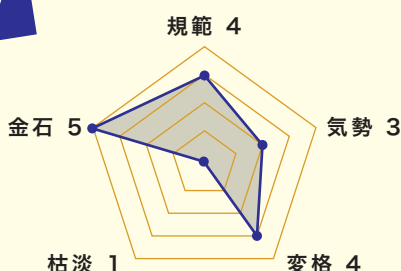
その影響は東アジアにも広がり、日本では白樺派の文学者や美術家が八大山人の生き方に共鳴し、個の尊厳と芸術の自由を重んじる思想を育みました。八大山人の表現は、地域と時代をこえて、現代にまで息づく精神的遺産となっています。

酒と蟹
八大山人めざし
旧友いずこ

かに ず じく
蟹図軸

せい ぱく せき
齊白石筆 1幅

中華民国時代・20世紀
台東区立朝倉彫塑館蔵
(書博展示・通期)



関連イベント

東京国立博物館

連携講演会「明末清初の書画」

六人部克典、植松瑞希（以上、東京国立博物館）、鍋島稲子（台東区立書道博物館）

日時：2026年2月14日（土）13:30～15:00

会場：東京国立博物館 平成館大講堂

定員：380名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選） 聴講無料、要観覧料

申込方法：東京国立博物館ウェブサイトの申込フォームからお申込ください。

申込はお1人につき1回までです（1回の入力で1名のみ申込可）。

申込期間：2026年1月18日（日）まで

台東区立書道博物館

ギャラリートーク「明末清初の書画」

中村信宏、春田賢次郎、笹川元康（以上、台東区立書道博物館）

日時：2026年1月18日（日）、2月15日（日）、3月1日（日）

いずれも10:00、11:00、13:30、14:30（各回50分）

会場：台東区立書道博物館

定員：各回20名（事前申込不要、当日先着順にて整理券を配布） 要観覧料

夜桜漫談「明末清初の書画 — 董其昌と八大山人 —」

富田淳（九州国立博物館）、鍋島稲子（台東区立書道博物館）

日時：2026年3月6日（金）18:00～19:30

会場：台東区民会館 第2会議室（都立産業貿易センター台東館8F）

定員：150名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選） 聴講無料

申込方法：書道博物館ウェブサイトの申込フォームまたは往復はがきでお申込ください。

申込はお1人につき1回までです（1回の入力で1名のみ申込可）。

申込期間：【ウェブサイト】2026年2月10日（火）まで

【往復はがきの場合】2026年2月10日（火）必着。「往信用裏面」に、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、年齢を、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記し、下記までお申込ください。

申込先：〒110-0003 台東区根岸2-10-4 書道博物館イベント係



ワークショップ「明末清初の書に挑戦！」

日時：2026年1月18日（日）、2月15日（日）、3月1日（日）

いずれも9:30～16:00（事前申込不要）

会場：台東区立書道博物館

要参加費（100円）

報道関係の方からの問い合わせ先

「明末清初の書画」広報事務局 担当：富樫、大原

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206

TEL:03-6275-0241 / 携帯:080-5443-1112 E-mail:press@annex-inc.jp

